

「PMディーブアロマ」で消費を開拓 セブンとサントリーが発表会

セブン・イレブン・ジャパンとサントリービールは7日、都内で「ザ・プレミアム・モルツ ディーブアロマ」の発表・試飲会を開催。開発の背景と商品特長について、それぞれ次のように説明した。(商品概要は別掲)



上条 智セブン・イレブン・ジャパン商品本部飲料・加工食品部チーフマーチャンダイザー(写真右)＝「酒離れと言われているが、セブン・イレブンの酒類売り上げは、洋酒とRTDがけん引するかたちで増加傾向にある。ビールは残念ながらマイナストrendだが、来るビール酒税一本化は確実に追い風となる。働き方改革で消費場面は変化している。家族団欒が見直される中、ビールにも癒しが求められている。そういった場面に合う新しいビールを、長年の信頼関係にあるサントリービールとともに開発した」

丸橋太一サントリービール商品開発研究部開発主幹・醸造家(同左)＝「新製品のコンセプトは“リラックス”“心和む熟成香”。一日の締めくくりを気持ちよくゆっくりできる癒しのビールに仕上げた。希少種ダイヤモンド麦芽に加え、カラメル麦芽、ミュンヒナー麦芽など複数の濃色麦芽を使用し、余韻をゆっくり愉しめる味わいにした。『セブンカフェ 香ばしシリアルシュガーバターの木』『ニューヨークチーズケーキ』とのペアリングも良く、デザートに合う新しいタイプのビールだ。

CCBJI、大阪工業大に学生デザイン自販機

(大阪) コカ・コーラボトラーズジャパンは、大阪工業大学空間デザイン学科の学生がデザイン

したラッピング自動販売機を、同校梅田キャンパスに設置した。

産学連携プログラムの課題解決型学習の一環として「インテリア環境から発想したプロダクトデザイン」をテーマに取り組んだもの。応募総数120作品の中から、学内審査を通過した21名63作品をコンペ形式で発表。最優秀賞が自動販売機のデザインに採用された。



7日に除幕式を行い、阪神ベンディング営業部の壺井孝彦担当部長は「今年1月に西のウエスト・東のイーストが経営統合したが、会社が大きくなるほど地域密着を最重点に活動する取り組みと大学の思いが一致して実現できた。キャンパスの空間にマッチしていることや、個性豊かなこと、時代を反映していること、独自のデザインであることを基準にデザインを選定した」とあいさつ。

宮岸幸正副学長は「梅田キャンパスではキーワードの1つにイノベーションを掲げている。技術革新もあるが、自分たちの考えたアイデアを社会に投げかけて採用されるという今回の取り組みは、正にイノベーションの基本だと考える」とあいさつした。

全国マーガリン製造協組が解散発表

全国マーガリン製造協同組合はこのほど、11月16日付総会で解散を決議したことを発表した。組合は1955年8月、農林大臣の認可を受け設立したが、事業の柱であった厚生年金基金の解散や市場環境の変化による事業の減少など厳しい状況から、63年に渡る歴史に幕を下ろす。今後は、清算結了に向けた事務手続きを行い、19年3月31日をもって事務所を閉鎖するとしている。